

平成二十八年度 入学式 式辞

暖かな春の光に包まれ、残雪の山々を背に、川を流れる雪解け水が輝く中、校庭を彩る桜も開花のときを迎えようとしている今日のよき日、新潟県議会議員西川洋吉様、同窓会長小林幸久様、PTA会長高橋昭夫様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、平成二十八年度入学式を、このように盛大に挙行できますことは、このうえない慶びであります。新入生の晴れやかな姿を見守るために、ご臨席をいただきましたご来賓の皆様に、心からお礼を申し上げます。

さて、先ほど入学を許可いたしました一一三名の皆さん、入学おめでとうございます。そして、保護者の皆様、ご家族の皆様、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

本校は、明治四十一年、古志郡立栃尾実業補習学校として、歴史と文化を持ち、豊かな自然に恵まれたこの栃尾の地に開校しました。開校当初は、農業科、染織科が設置されていましたが、間もなく商業科が加えられ、明治から大正、昭和、平成へと時代が変わる中、県立栃尾農商学校、県立栃尾実業学校、そして県立栃尾実業高等学校と改称され、定時制課程や分校、普通科が設置される中、昭和二十四年、県立栃尾高等学校となりました。その後、時代の変化と要請を受けて、平成九年には総合学科が設置され、現在に至っています。この間に、二万一千有余名の若者が、この学校で学術や芸術の習得と探究に励み、心身を鍛え、将来への夢を語り合いながら、人生の輝ける貴重な時間を過ごしました。

新入生の皆さんも、そうした多くの先輩たちにつき、これから本校で充実した三年間を過ごすことができるように、学校生活における心構えとして、二つのことを話します。

まず、一つ目です。

本校では、総合学科として、二年次からは四つの系列に沿って、普通科目と専門科目を、自分で考えた組み合わせで、自分だけの時間割をつくって学習します。そうした学習を進める中で大切なのは、自分の将来への「目標」をきちんと持つことです。

世の中は、一人一人の役割分担で成り立っています。皆さんは、本校を卒業した後、大学や専門学校などに進学するにしても、企業などに就職するにしても、その時期の早い遅いはありませんが、いずれ職業選択をして社会を支える一員となります。高等学校は、将来の具体的な進路を選択するという、いわゆる社会的移行の大切な段階となります。自分はどうな形で社会を支えていきたいのか。そしてどんな人生を歩んでいきたいのか。このことをきちんと考え、将

来の社会人としての自己実現を目指し、「目標」を立てて、高校生
活を歩んでもらいたいと思います。

二つ目です。

社会人として自己実現しながら生きていくためには、人としての
心身の調和が欠かせません。そのためには、「知力」と「努力」と
「心」を整えることが大切です。

「知力」とは、頭や体の働きです。さまざまな知恵を身につけて、
それを応用する能力のことです。しかしこれだけでは、ひよつとす
るとコンピュータや機械に負けるかもしれません。「努力」とは、
その「知力」を行動に移すための実行力のことです。しかし、これ
だけでは、間違った方向に「努力」して、自分の「知力」を無駄に
使ってしまうかもしれません。「心」は、その「知力」と「努力」
を、人間として正しい方向に持っていくために必要な、船の舵のよ
うなものです。

これら、人としての心身の調和に欠かせない「知力」「努力」「心」
の3つですが、実はそれらの足し算ではなく、掛け算によって人の
総合力は決まります。つまり、一つでもゼロだったりマイナスだつ
たりすると意味がないということです。これからの高校生活の三年
間は、長い人生の中ではごく短い期間ですが、これからの人生に大
きな影響をもたらす重要な三年間となります。高校生時代には、こ
れら「知力」「努力」「心」を自分自身で意識してバランスよく伸
ばしてほしいと思っています。

さて、この二つの心がまえを実践するためにはどうしたらよいで
しょうか。それは、本校で、失敗を怖がらずにいろいろなことに積
極的にチャレンジし、多くのことを体験し、経験することです。本
校でいろいろなことにチャレンジする中で、必ずや自分の個性、能
力、そして誰にもない自分の魅力を発見できるはずで。発見でき
たらそれを将来への「目標」とし、「目標」に近づくための「努力」
を日々行ってください。また、体験し、経験する中で、自分の思っ
たようにできなかつたことについて、しっかりと振り返ってみてく
ださい。振り返ること、自らの「心」を育てることができるよう
です。

高校生活は、自分が主体にならなければ何も始まりません。常に
今、何をすべきか、何ができるかを考えて行動し、前に進んでいっ
てください。それが本校の総合学科で学ぶということです。

校歌の一節に、

「朝日に匂ふひんがしの 大空高くそびえたつ 守門の雄姿仰ぐ時
われらが意気ぞ 天をつく」とあるように、今、高校生という新
たなステージに立つに当たり、自分の目標に向かって、意気高く、
真っ直ぐに自らを伸長させることを決意してもらいたいと思いま

す。そして、皆さん一人一人が自分自身の個性と能力、魅力を発揮し、自らの使命を自覚して、将来、社会人として世の中に貢献できる人間に育ってほしいと思っております。

最後に、保護者の皆様、ご家族の皆様、これからの三年間は、まさに自己を発見し、自分の将来像を描く、自立への旅となります。あるときは、人生の先輩としてきびしく、あるときは冷静に、またあるときは包み込むように温かく、見守ってください。私たち教職員も、本日入学を許可いたしました一一三名の教育に、全力をあげて取り組んでいく所存であります。

新入生の皆さんが今日の喜びと決意をいつまでも忘れず、自立した人間を目指して、充実した高校生活を過ごすことができるよう願って、式辞と致します。

平成二十八年四月七日

新潟県立栃尾高等学校校長

太田 洋一